

鳳凰三山山行報告

【山行日】 2014年 9月 9日(火)～10日(水)

【集 合】 野木町島田宅 AM 3:00

【費 用】 マイカー1台 : 15,000円

【メンバー】 CL:鈴木、 大西、 島田、 渡辺

9月9日(火) 晴れ 青木鉱泉登山口からドンドコ沢コース経由で地蔵岳を登り鳳凰小屋へ

野木町島田宅 3:00＝青木鉱泉 P6:20/6:45～南精進ヶ滝 8:30～白糸の滝 10:30～鳳凰小屋 12:15/13:00～地蔵岳 14:00/14:20～塩見小屋 15:00



今回も天候不順に悩まされた。9/7(土)・8(日)の2日間で計画したが、雨模様なので延期した。ところが9日、10日の天気予報も毎日変わり気をもんだ。

天は我々に味方してくれ、二日間快晴の素晴らしい天気恵まれ眺望を堪能できた。



鳳凰三山への登山口はいくつかあるが、今回はマイカー登山に便利な青木鉱泉からドンドコ沢を登り、中道経由で青木鉱泉に戻る周回コースにした。青木鉱泉はカラマツ林に囲まれた、静かな一軒宿。手前に登山者専用の駐車場がいくつかあり、宿で受付をして駐車料金を払い、領収証を見えるところに置く。庭を借りてストレッチをし、標識に従いドンドコ沢沿いに進む。少し先に行くと、登山道右側の崖が大きく崩落し通行止めになっていた。

砂防ダム工事現場を横切って右岸に渡り、巨大な砂防ダムの手前を左岸に渡り返し、砂防ダムを階段で登って登山道に戻る。ドンドコ沢の左岸に付けられた登山道を登って行くが、支沢を渡るときに降りては登り返すので結構きつい。最初の滝、南精進ヶ滝に着き、滝見台に行くか聞くと、体力を温存したいのでパスとの返事。この先は傾斜がきつくなり、鳳凰の滝看板を見送って急登を頑張ると白糸の滝に着く。この先小沢を渡り、ザレ場を過ぎると五色滝に出た。五色滝は滝の下まで降りられるが、途中からも滝が良く見える。陽光を浴びて、金銀に輝きこの沢で最も豪華な滝であった。五色滝を過ぎると右手に登るようになり、ザレ場をいくつか越して小沢を渡り、林を抜けるとドンドコ沢源流の河床を歩くようになる。地蔵のオベリスクが正面に聳え、記念の写真を撮る。ここから小尾根に取り付き、シラビソの樹林を進むと鳳凰小屋が見えてくる。小屋で早速受付を済ませ、新館へ案内される。小屋の周りはヤナギランやハウオウシャジン、タカネビランジの花が咲き誇りとても綺麗だった。外のベンチで昼食のラーメンを食べ、サブザックに替えて地蔵岳に登る。小屋のベンチから、水場の前をまっすぐ進み、左へ小尾根の急登



となる。樹林帯を抜けるとザレ場の急登となり、とても歩きづらい。我慢して直登し、オベリスクの基部に出た。オベリスクは登らないと言うので、西側の岩場に行き、甲斐駒や仙丈岳、北岳、間ノ岳の



眺望を楽しむ。オベリスクをバックに記念写真を撮っていると、若者2人が登ってきてオベリスクに挑戦すると言う。我々はナンを食べながら高みの見物。アツと言う間に登り切りお見事。登頂の写真を撮り、後日メールで送ってあげた。若者たちは、4人ノグループで、今朝青木鉱泉から中道を登り、鳳凰三山を縦走してこれから下山すると言う。我々は地藏岳まで登るのが精いっぱいと言うのに、凄いパワーだと感心した。

賽の河原へ回り、記念写真を撮って小屋まで下山する。小屋ではテラスのベンチで宴会の最中。早速我々も用意してテラスに出、徳ちゃんの百名山大手の祝賀会。周りの方々も我々の話に参加して、にぎやかな会話と笑い声が絶えず楽しいひと時。夕食は定番のカレーライス。本日の宿泊は17名、先ほどの宴会の延長でにぎやかな夕食となった。

9月10日(水) 晴れ 観音岳・薬師岳に登頂し、中道を下り青木鉱泉登山口まで下山。

鳳凰小屋 4:45～観音岳 6:20/6:50～薬師岳 7:20～中道登山口 11:00～青木鉱泉 P11:30/11:45＝ゆーぷるにらさき 12:20/13:10＝回転寿司「活鮮」13:20/14:00＝野木町島田宅 17:05

朝4時に起床、テラスに出て支度しストレッチを行い、ヘッドランプを点けて出発する。水場の脇から沢に降り、沢を渡って右手に登ると登山道への梯子がある。尾根に沿って樹林帯を登ると、やがて傾斜が緩くなり、赤抜沢ノ頭からの縦走路に合流し左に進む。前方に観音岳山頂が見えるようになり、花崗岩の間を登るようになる。右側には白根山三山が大きく聳え、後方に甲斐駒、仙丈岳がくっきり見える。観音岳は鳳凰三山の最高峰で、花崗岩が重なり合った狭い山頂だが360度の大パノラマ。東には富士山やハヶ岳連峰、遠く南には荒川三山や赤石岳が望める。天気が良く、朝日を浴びた北岳、間ノ岳、農鳥岳は山巒がはっきり見え大迫力。眺望を楽しみ、少し降りた広場で朝食タイム。お茶を沸かして小屋の弁当をいただく。富士山を見ながら食べる弁当は、最高の贅沢。ここから薬師岳までのルートは、花崗岩とハイマツが織りなす雲上のスカイライン。朝日に映える白根三山を堪能しながら歩く



稜線は、山歩きの醍醐味である。ルンルン気分歩いて30分で薬師岳山頂へ着く。薬師岳は白砂の広い山頂に、大きな花崗岩のオブジェを配した素敵な山頂。

鳳凰三山を制覇し、徳ちゃん99座目の百名山登頂し、日本百名山完登に大手を掛けた。記念写真を撮り、全員で握手とバンザイ三唱。徳ちゃんは「ここまで来られて夢のよう。」と満面の笑みを浮かべ喜んでいた。

薬師岳からは、中道を下りる。中道は、二十数年前の山



梨国体山岳競技のコースとして新設された、比較的新しいコース。単調だが、青木鉱泉に下る最短コースとして、マイカー登山者には便利なコースである。樹林帯をひたすら下り、見どころが少ない。途中御座石と言う、大きな岩がありベンチと案内標識があるが、他には休憩用ベンチは無かった。3時間以上黙々と下り、林道の登山口に着いた。ここから林道を20分ほど歩くと、青木鉱泉への近道の標識があり、ドンドコ沢を渡り護岸の階段を上

がり、林道を横切って上がるとトイレの脇に出る。全員で固い握手し、99座目登頂を喜び合った。日帰り温泉「ゆーふるにらさき」で汗を流し、途中の回転すし「活鮮」で好きな寿司を腹いっぱい食べて帰路についた。